

第9章 組織は人の安全と健康をどのように守っているのか

演習問題

- ① 安全・衛生管理の必要性について、法的、心理的、倫理的、経済的視点別に整理してみましょう。
- ② 「健康経営銘柄」選定企業 (http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kenko_meigara.html) の中から、自分が関心のある企業を選び、その取り組みについて、詳しく調べてみましょう。
- 3 安全・衛生管理を行うにあたって、どの程度まで未然の防止に努めればよいのでしょうか。対象とすべき事象を自分で選んで考えてみましょう。

さらに進んだ学習のために

- (1) 川人 博 [2014] 『過労自殺〔第2版〕』岩波書店。

過労自殺の現場に向き合ってきた弁護士による1998年公刊書籍の第2版です。社名も掲げた事例が多く取り上げられており、過労自殺の痛ましい実態を知ることができます。過労自殺と労災補償など、人的資源管理の領域では通常、詳しくは取り上げない領域についてもその実態を学べます。著者は、過労死防止のためには、高校や大学で労働の実態を学ぶことが必要だと提唱しています。その意味でも、特に学生の読者にとっては、公刊後10年以上経ちますが必読の書といえるでしょう。

- (2) 岸一金堂玲子・森岡孝二 編 [2016] 『健康・安全で働きがいのある職場をつくる』ミネルヴァ書房。

日本学術会議が2011年4月に公表した提言「雇用労働と安全衛生に関わるシステムの再構築を——働く人の健康で安全な生活のために」をもとに、新しいトピックスも取り入れ、一般向けに再編纂されたものです。執筆する医学、法律、経済、工学など多様な分野の研究者が共有するのは、雇用労働に関する問題は、単に経済的問題にとどまらず、日本の将来のあり方を見据えて考えるべき重要課題である、というものです。まずは、関心のある章を読んでみてはどうでしょうか。

- (3) 森晃爾・永田智久・小田上公法 編 [2023] 『健康経営を科学する！——実践を成果につなげるためのエビデンス』大修館書店。

本書は、産業医科大学大学院医学研究科産業衛生専攻によるウェビナー形式の公開講座の内容をもとに編纂されたものです。産業医の実務経験をもつ著者らによって、定量的なデータに基づいた健康経営をいかに実践していくかがわかりやすく論じられています。文末には、こころの状態やワーク・エンゲイジメントなどを測定したデータと質問文が付録として載っています。データは健康経営を実践するにあたって目標設定する際のベンチマークとして、質問文は定量的調査に有用です。

演習問題の出題意図と解答のポイント

- ① 1-4を中心にまとめてみましょう。

その際に、本章で挙げた4つの点について、さらに必要な理由がないかも検討してみてください。また、安全・衛生管理の必要性をみる際に、これら4つの視点以外の論点は挙げられないかも考えてみましょう。

- ② リンク先のページ内「3. 健康経営銘柄選定企業紹介レポート」には、初回2015年からのレポートが掲載されています。まずは、最新のレポートを開いて、一口に「健康」と言っても、切り口や取り組み方は各社各様であることを確認してみてください。

このレポートでは、各社1ページしか掲載されていないので、関心を持った企業のウェブサイトを訪ねて、健康経営の取り組みについて詳しく調べてみましょう。

- ③ 対象となる事象が選びにくい場合は、事故、病気、感染症や自然災害といった要因ごとに大きく分けて、未然の防止がどの程度可能かを考えてみましょう。そうした過程で特に関心を持った事象について、さらに詳しく考えるという手順をとってみてください。また、本文でも触れたように、ハザードを完全に無くすことは可能という立場で接近するのか、ハザードをゼロにすることはできないという立場で接近するのかによっても考え方が変わってくるはずです。友人やグループでそれぞれの立場に分かれて議論してみるのもおもしろいでしょう。